

環境まちづくり 会報

題字／福田博子

編集・発行／入間市環境まちづくり会議

活動するごみひろい隊

美しい入間を求めて

派手なピンクのジャンパーを着て入間市役所、入間市駅やまるひろの近くでごみを拾っているのがごみひろい隊です。

2005年11月6日(日)にごみひろい隊の活動を始めてから1年が過ぎ、1月28日(日)には13回目を迎えました。今では民間企業、市役所そして個人の

方など多数の参加があり、地域も入間市中心街だけでなく武蔵藤沢駅周辺にも広がっています。また違反簡易広告物除却推進員の資格を取

得し、違反簡易広告物除却も行うようになり、活動の幅がどんどん広がってきています。(みんなのごみ部会)



ごみ拾いを終えて

ごみひろい隊に 関心をお持ちのみなさまへ

ごみ拾いは毎月第4日曜日10時から行っています。是非多くの皆さんの参加をお願い致します。関心をお持ちの方は下記にご連絡ください。

連絡先：新井馨 (あらいかおる)
電話：04-2932-8131

平成19年度 総会

に参加しましょう

5月26日(土)

午後2:00～

入間市産業文化センター2階
第2集会室

●部会設立の アンケート結果報告

会員等406名を対象に部会設立のアンケート調査を行った結果、39名の方から部会に参加したいとの回答(水9名、緑10名、大気11名、ごみ9名)や多数のご意見をいただきました。今後、参加希望者の方を中心に、活動中のみんなのごみ部会に加えて新たな部会設立の話し合いを進めていきます。(木内勝司)

●表彰委員会報告

「北極の水が34年後に消滅する？」こんな研究結果が発表され、待たなしの地球環境であります。表彰委員会では団体・個人の方を第1回「入間市環境大賞」表彰させていただくのか、鋭意検討中です。今後とも地道な活動をされている方々も表彰させていただけるべく自薦、他薦いただけますようお願いいたします。(谷口秀男)

第5回

環境ウォーキング



皆さんが聴くみゆきバンドの演奏しながらいただきながら

けるのか、今から楽しみです。



不老川下流 まちなかコース

9時40分小雨のなか、参加者12名役員4名計16名で傘をさしてのスタートとなりました。まず、真言宗源光山不動院に立ち寄り、「こんな所に立派なお寺さんが・・・」隣に、近藤ちよ記念館、「へエー知らなかった・・・」

続いて、きれいになった不老川沿いに歩く。一昔前の汚れた川を知る者として、関係者の人達のご苦労を想いつつも、意外と畑があって川面に遊ぶ多くの「カモ」の姿を見てホッとするウォーキングを楽しみ、健康福祉センターでは、センターと一体とな

ったドングリ林を案内・説明いただき、「大事にしなれば・・・」と想い、次ぎに、六地藏さんをマジマジと眺め、人間の歴史の一端を垣間見て、さらに、イオンさんでは環境に取り組む企業姿勢をお聞きし、小雨について扇町屋公民館に全員無事に到着することが出来ました。

9500歩・所要時間2時間10分の心地よい疲労と環境を想うウォーキングがありました。(谷口秀男)



入間川・霞川 下流コース

当日は入間市武道館に1名の参加者が集まりウォーキング、万歩計クイズ、コースの説明・準備運動を行い、入間市武道館をスタートし、旧ふれあいサンクチュアリ、笹井堰を経て入間川と霞川との合流地点、そこから霞川を上流に向かい扇橋を渡って、扇小屋公民館というコースをウォーキングしました。

第1チェックポイントの旧ふれあいサンクチュアリでは木内委員より人間と自然の共存について、どこまで人が手を加えたらよいのか?説明を聞きました。

第2チェックポイントの笹井堰では鳥が堰を上る魚を狙っている話など知らなければ見逃してしまう興味深い話や中洲に見える粘土質から入間川の成り立ちなど、様々な角度から環境を見ることができました。

第3チェックポイントの霞川と入間川の合流点では合流の仕方などの説明を受けました。そして霞川に沿って上流に向かいましたが、3回ほどカワセミを見るこ

とができ霞川にも自然が戻ってきたのを実感できました。(児玉 任司)



加治丘陵コース

このコースは、丘陵地帯の登り降りがあり、時間内でのウォーキングにはかなりき

ついコースであった。



チェックポイントは3カ所。東金子小学校やホタルの生息する牛沢のビオトープ(生物多様を目指した、生物の生息する場所)と、丘陵地帯が圏央道と299バイパスによって切断された場所である。

コースには、斜面林や池、住宅街、畑など自然をバックボーンに様々な景観を見ることができ楽しいコースで、30名という多くの人が参加した。

(平田和雄)

環境に配慮した取り組み⑥

株式会社丸広百貨店入間店

(ISO14001認証取得店舗)

「循環型農法つてご存知ですか」

生ごみとして捨てられていた野菜くず、飲食店の食べ残し、などの「ゴミ資源」から、微生物の力を借りて、有機肥料を作り、畑で施肥し農産物を生産するという、食物の循環をこのように表現します。

ここで作った「堆肥」を使い、契約農場で生育した、安心して召し上がって頂ける野菜を販売しています。



丸広入間店には、生ごみ処理のプラントが設置してあり、ゴミの減量対策としても強い味方になるとともに、こ



ISO14001の精神にも合致した、表題の「循環型農法」が行なわれているわけです。この野菜たちが、お客様にもっと浸透して行けばと、社員一同期待しております。

(総務副店長 山中昌幸)

市民の声

雑誌と浅草紙

今木材の自給率20%の日本。入間市の可燃ごみの42%が紙類で灰となる。

江戸時代の寺子屋師匠が教える規則は「縦破候 反古たりと去供不浄の処へ 不可捨事」。紙の大切さを教えた。浅草紙とは（鼻紙、落紙）の名称です。浅草紙の発祥地は浅草田原町で、紙の漉き返しの主産地でした。浅草紙の原料は屑紙を買い集め、その反古紙を水に浸し、

砧打して天日乾燥して一枚のちり紙ができた。

尻を拭くその紙の名

浅草紙鼻のさきに仁王門

浅草は良都と見えて、紙とのり、浅草紙が、無駄方便で

川柳になり短歌となって残った。寺田寅彦先生の「浅草紙」を読めば紙の質がわかります。木材自給率100%の江戸時代でした。
(進藤愛一郎)

入間市生涯学習フェスティバルへの参加

平成18年12月3日（日）産業文化センターで行われた。参加者は約5000名、環境関係では「入間市環境まちづくり会議」の他に市内で活動を行っている10



オオタカの写真

ヨーなどで紹介。霞川の魚も展示。写真展を観た人から「入間市にこんな動物がいたの」という驚きの意見が多数、子ども達は「ムササビ」「たぬき」



水切り大作戦

団体が参加、展示や体験コーナー、スタンプ・ラリーなどを行った。いるまの仲間たちと題して入間市内で生きている動物を写真展やスライドシ

「私たちの親子」の写真を見て「かわいい」と歓声を上げていました。

水切り大作戦は、水切りをするのは直接生ごみの減量につながる。市民がすぐにも始められる水切り方法を紹介し、「あなたはどれをやってみたいと思いますか」で投票して頂いた結果、濡らさない（簡単ボックス）が一位でした。その他、パッケラストも行った。

(本多進)

~~~~編集後記~~~~

先日、久しぶりに加治丘陵に行ってみました。展望台に上がり四方を見ると、遠くに赤城山や富士山が映り、とても美しい景色を見ることができます。そこから南・北のコースを3時間くらいかけて一周してきました。丘陵を歩いてみると杉や桧が多く、陽の光がほとんど差し込まないため、この時期歩くにはとても寒く、また、コースを少し外れるととても滑りやすくなっていました。所々に土砂崩れ注意の看板を見かけましたが、これも、森の保水力が低下しているのが原因のようです。森からのメッセージを私達が受け止められるか試されているような気がした一日となりました。皆さんも一緒に考えてみませんか。(清水洋行)

入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課
住所：〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号
TEL：04-2964-1111（内線1241,1243）
FAX：04-2965-0232
E-mail：ir210100@city.iruma.lg.jp